飛躍への挑戦！
高知県産業振興計画

高知県 農業技術センターニュース

第98号　2020年1月

目　　　次

オオバの養分吸収特性に基づく効率的施肥技術	・・・1	酒造好適米品種‘吟の夢’の適正登熟気温の提示	・・・4
トマトホモプシス茎枯病防除に向けた取り組み	・・・2	播種時期の違いがニラの抽だいに及ぼす影響	・・・5
露地ネギにおける土着天敵の発生実態	・・・3	耐低温性「ピーマン高育交13号」の現地実証試験での評価	・・・6

オオバの養分吸収特性に基づく効率的施肥技術

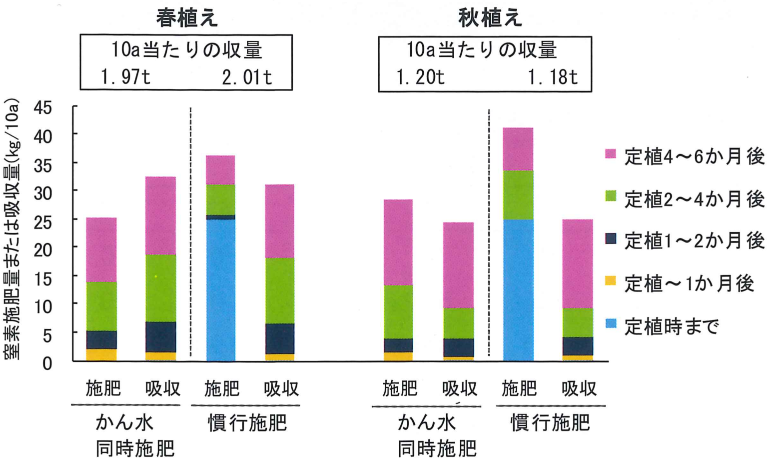

図1　作型別の窒素施肥量および吸収量

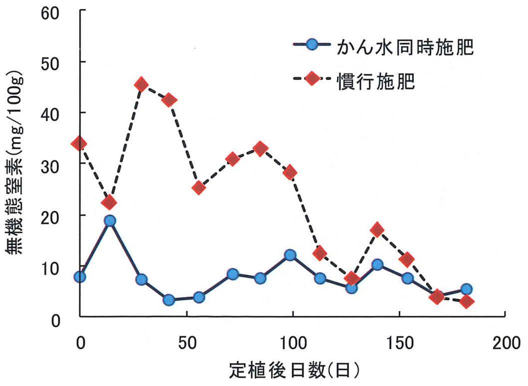

図2　土壌中の無機態窒素の推移（秋植え）

これまで実施してきたオオバの養分吸収特性調査の結果、定植30日後以降に養分吸収量が急激に増加することや、窒素の吸収量は施肥量の半分程度にとどまっていることなどを明らかにしました（センターニュース第90号）。

そこで、施肥の合理化を図るため、基肥を施用せず、養分吸収特性に応じたかん水同時施肥を行う体系を検討しました。

窒素施用量を約30%、リン酸を約50%低減したかん水同時施肥栽培では、春植え作型で窒素吸収量が想定より多く、施肥量を上回ったものの、試験を行った春植え・秋植え作型とも概ね時期別養分吸収特性に応じた施肥ができました。収量には、両作型とも慣行施肥栽培との差は認められませんでした(図1)。

土壌中の無機態窒素は、かん水同時施肥栽培では窒素吸収量が少ない生育初期から比較的低く抑えられ、また、栽培期間を通して変動の小さい安定した推移を示しました(図2)。

今後は、現地の土壌実態として問題となっている、リン酸やカリの蓄積にも対応したかん水同時施肥栽培法について検討していく予定です。

(土壌肥料担当　糸川修司　088-863-4915)